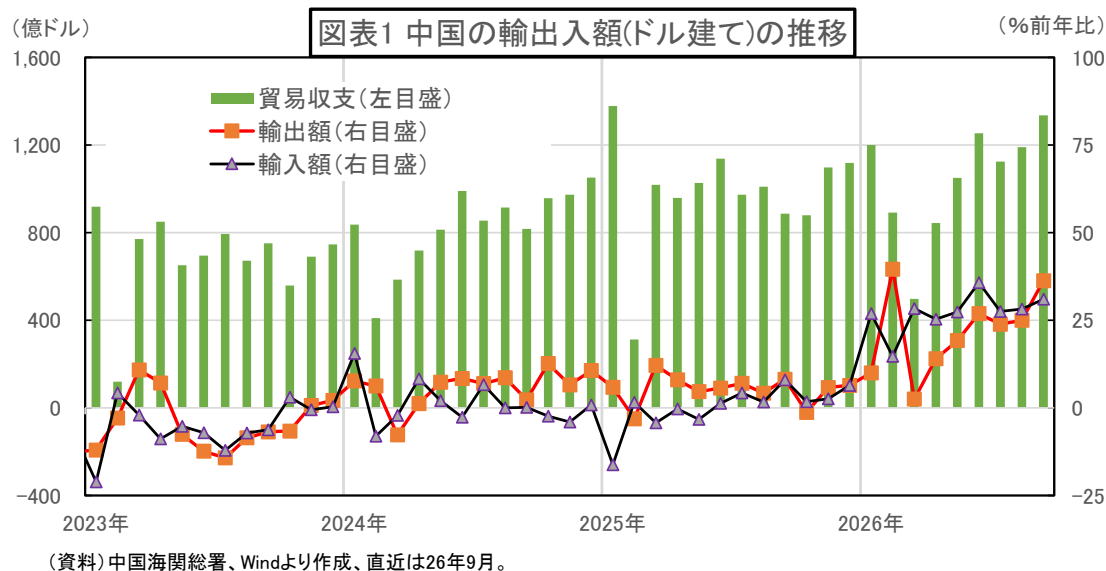


(中国)9月の輸出は底堅く推移し、外需が景気を下支えする構図に変化なし

中国海関総署が発表した9月の貿易統計(速報)によると、9月の輸出額は3,137億ドル、前年比36.3%となり、8月(同25.0%)から一段と伸びが加速した(図表1)。高い伸びを維持した背景には、AIブームを背景とする半導体関連製品や自動車・同部品の輸出急増に加え、対米輸出の回復がある。また、2025年9月の輸出が低調だった反動(ベース効果)や8月の台風による港湾物流への一時的な影響が解消され、9月に輸出が集中したことも押し上げ要因となった。その結果、輸出額は市場予想を大きく上回り、単月として過去最高を記録した。



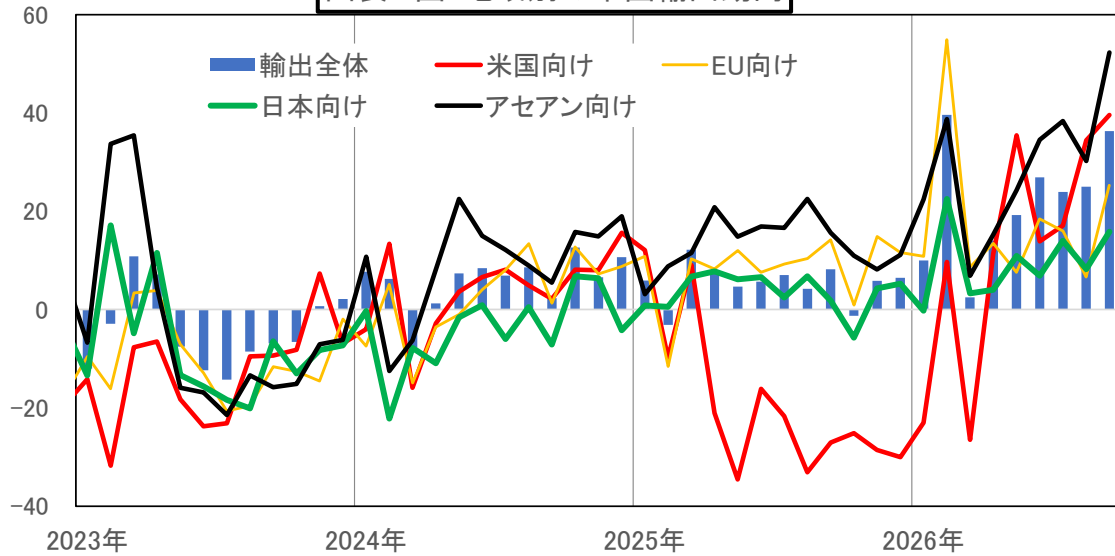
品目別にみると、9月の集積回路(IC)および自動データ処理装置・同部品の輸出額は、それぞれ前年比136.1%、同92.9%となり、いずれも8月からさらに伸びが加速した。両品目だけで輸出全体の伸び率(前年比36.3%)を13.0ポイント押し上げた。ただし、ICについては輸出単価が前年比133.7%上昇した一方で、輸出数量は前年比1.1%にとどまっており、価格要因による寄与が大きかった。

また、中国国内市場における競争激化や国際市場での競争力の高さを背景に、9月の自動車輸出台数は118.2万台と4か月連続で100万台を上回った。加えて、衣類、靴類、かばん、おもちゃ、家具などの労働集約型消費財の輸出も前年比25.2%と大きく回復し、輸出全体を1.9ポイント押し上げた。

国・地域別にみると、米国向け輸出は前年比39.6%となり、持ち直し基調が続いたほか、アセアン向けは同52.3%、EU向けは同25.3%、日本向けは同15.8%となり、いずれも8月から伸び率が大きく拡大した(図表2)。

(%前年比)

図表2 国・地域別の中国輸出動向



(資料) 中国海関総署、Windより作成、直近は26年9月。

輸出の先行きについては、AI 関連製品の価格上昇ペースの鈍化や、中東情勢、貿易摩擦をめぐり不確実性などの下押し要因は残る。一方で、AI 関連投資需要の拡大が続くとみられるほか、対米輸出も回復基調を維持する可能性が高い。このため、10 月の輸出も総じて底堅く推移すると予想される。

なお、9 月の輸入額も前年比 31.0%となり、8 月(同 28.2%)から小幅に加速した(図表 1)。前年の反動に加え、IC、自動データ処理装置・同部品、銅材の輸入増加が大きく寄与した。加工貿易という中国の構造的特徴を反映し、これら品目だけで輸入全体を 22.6 ポイント押し上げた。また、中東情勢の影響により原油や天然ガスの輸入量は引き続き大幅に減少したものの、エネルギー価格の急騰が輸入額全体を押し上げた。